

証券コード：9179



"K" LINE KINKAI

株主通信 vol.5 2009年 9月



MARINE VICTOR

川崎近海汽船株式會社

株主の皆様へ

株主の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より格別のご高配、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

第44期第2四半期の営業概況ならびに事業内容をご理解いただくために、株主通信をお届けいたします。

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、昨秋以降の景気後退局面から、企業努力、政府の経済施策の効果等により回復の兆しがみられましたが、先行きは依然不透明であり、海運業界においても国内外市況の低調に加え、円高傾向及び燃料油価格の再上昇など厳しい事業環境にあります。こうした情勢下、当社は各部門にわたり、きめ細かな営業活動と効率的な配船、諸経費の節減に努め業績の向上を図りましたが、当第2四半期連結累計期間の売上高は179億8百万円となり、前年同期に比べて33.2%の減収、営業利益は7億93百万円となり、前年同期に比べて76.0%の減益、経常利益は7億40百万円となり77.2%の減益、四半期純利益は6億64百万円となり66.9%の減益となりました。

中間（第2四半期末）配当につきましては、上記のような業況にありますので、誠に不本意ではありますが、1株当たり2.5円とさせて頂くことになりました。なにとぞご理解賜りますようお願い申し上げます。

海運業界を取り巻く環境は先行き不透明な状態におかれています。各部門にわたって一層の業績向上を目指す所存です。

株主の皆様におかれましても、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役会長

荒木 武文

代表取締役社長

森原 明

CONTENTS

株主の皆様へ	1
財務ハイライト	2
部門別営業概況	3
船舶紹介	4
部門クローズアップ フェリー部門	5

連結財務諸表	7
個別財務諸表	8
トピックス	9
株式の状況	10
会社概要	10
株主メモ	裏表紙

財務ハイライト

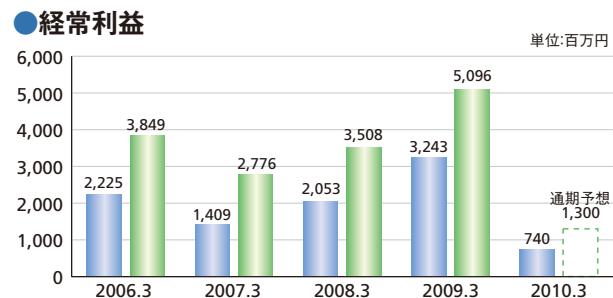
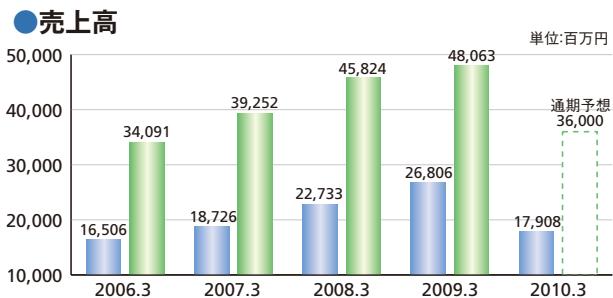
● 当第2四半期の業績結果

連結業績	
売上高	179億 8百万円 (前年同期比 △33.2%)
営業利益	7億93百万円 (前年同期比 △76.0%)
経常利益	7億40百万円 (前年同期比 △77.2%)
四半期純利益	6億64百万円 (前年同期比 △66.9%)

連結財政状態	
総資産	394億73百万円
純資産	189億20百万円

連結キャッシュ・フロー	
営業活動によるキャッシュ・フロー	15億39百万円
投資活動によるキャッシュ・フロー	3億61百万円
財務活動によるキャッシュ・フロー	△16億42百万円

中間(第2四半期末)配当金	
1株当たり2.5円	

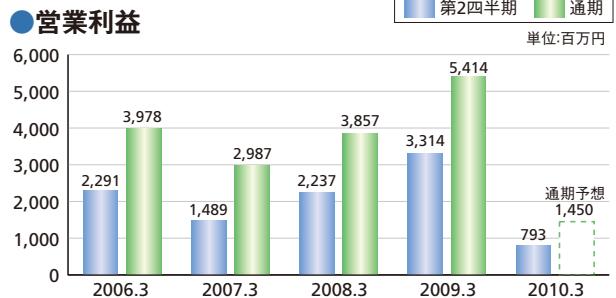


● 通期の業績予想

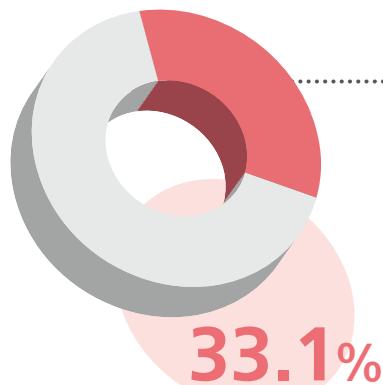
連結業績	
売上高	360億円
営業利益	14億円
経常利益	13億円
当期純利益	9億円

(下期の想定円ドル為替レート 1ドル=90円)

年間配当金	
1株当たり5円 (中間(第2四半期末) 2.5円・期末2.5円) を予定	



部門別営業概況



近海部門

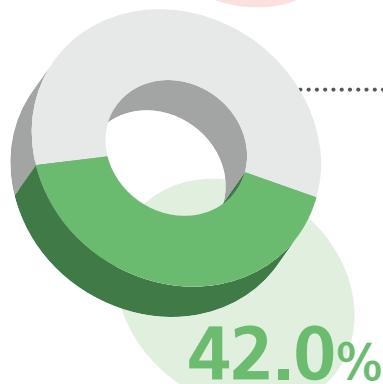
売上高**59億33百万円**

不定期船部門

昨秋以降急落した不定期船市況は春先に底打ちしたものの、世界的な景気低迷の影響で荷動きは鈍く、安定的収益を維持していた石炭等ばら積輸送も年度契約が厳しい条件となり、輸送量は前年同期比減少し、当部門の回復状況は低水準に止まりました。

定期船部門

往航の香港・海峡及びタイ向け鋼材輸送の主要貨物である自動車用鋼板は、年初の減産体制から第2四半期以降緩やかな持ち直しの動きが見られたものの前年を下回る結果となりました。一方復航の合板輸送においても国内住宅着工件数の低下が響き、輸送量は前年同期に比べ減少いたしました。



内航部門

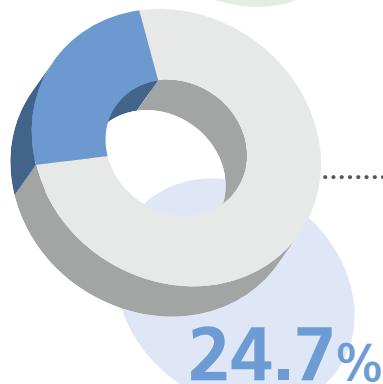
売上高**75億17百万円**

不定期船部門

景気回復の遅れから国内粗鋼生産量が低調に推移したため、鉄鋼副原料輸送量が減少し、とりわけ小型貨物船分野においてその影響が大きくなりました。一方、鉄鋼、セメントメーカー向け石灰石専用船は概ね順調に稼動いたしました。

定期船部門

紙専用船は荷主との長期契約により引き続き安定した輸送量を確保できました。一方、一般雑貨輸送では、釧路一日立航路において農産物・水産加工品の獲得を積極的に進めましたが、紙製品の減産が影響し輸送量は前年同期に比べ減少いたしました。また、顧客ニーズに合わせ航路の効率化を図るため、東京ー苫小牧航路を休止し、常陸那珂航路に集約して1日2便体制とした結果、安定した輸送量を確保できました。北関東ー北九州航路は、新規貨物の開拓、北海道との接続貨物の獲得に努めましたが、前年同期並みとなりました。



フェリー部門

売上高**44億15百万円**

八戸ー苫小牧航路は、輸送需要低迷にもかかわらず底堅い宅配貨物輸送に支えられ、天候にも恵まれたことからトラック輸送量が増加し、想定を上回る航海数を確保することができました。

また、乗用車・旅客数はガソリン価格の値下がり、大型連休による旅行需要の高まりなどが奏功し、前年同期に比べ輸送量は増加しました。

船舶紹介

近海不定期船

12隻

おもに日本、東南アジア、極東アジアにおける南洋材、チップ、石炭などを輸送。石炭輸送においては、中国炭、ロシア炭輸送の有力船社として確固たる地位を築いています。

GLORIOUS FUTURE／SUNROAD YATSUKA／TROPICAL BREEZE 他 写真：CHIKUSA



近海定期船

16隻

鋼材、機械、一般雑貨、木材製品などを輸送する日本と東南アジアを結ぶ定期航路。企業の国際物流に対応した海上輸送の一翼を担っています。

ORIENT KING／SHINKEN ACE／MARINE DIAMOND 他

写真：MARINE EMBLEM



内航不定期船

10隻

鉄鋼副原料、セメント原料としての石灰石や電力用石炭をはじめ、多様な物資を全国各地に輸送しています。

JP TSUBAKI／千津川丸／須寿川丸 他

写真：美津川丸



内航定期船

9隻

生乳をはじめ、紙製品、農水産物、一般雑貨などを輸送する定期航路。スピーディで高品質な海上輸送を提供しています。北関東を中継し、北海道ー九州間の一貫輸送も可能となりました。

ほくれん丸／神川丸／げんかい／南王丸 他

写真：ほっかいどう丸



フェリー

4隻

苫小牧ー八戸間を毎日4便運航。本州と北海道を最短ルートで結ぶ重要基幹航路として地域産業の発展に大きく貢献しています。

シルバーキーン／フェリーはちのへ／べにりあ

写真：べが



部門クローズアップ

フェリー
部門

SEA ROAD

航路案内

ストップ! 地球温暖化

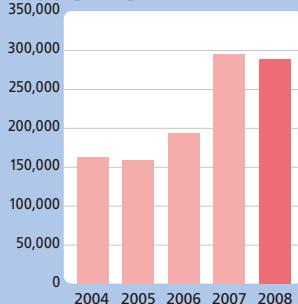
川崎近海汽船は「K」LINEグループの一員のため貨物船の会社のイメージが強いのですが、フェリー事業も手がけています。事業所は東京（本社）・札幌・八戸・苫小牧の4ヶ所に配置し、青森県八戸市と北海道苫小牧市の間を4隻のフェリーで運航しています。本州と北海道を結ぶ重要な基幹航路であり、旅客の他、本州から北海道へは宅配貨物、工業製品、食品等、北海道から本州へは宅配貨物、農畜産品等が主な貨物になります。年間の輸送量は、旅客数は約29万人、乗用車は約5万台、トラックは約14万台の実績となっています。

今、CO₂など温暖化ガスの排出を削減する国際的な目標値の達成に国を挙げて取り組んでおりますが、私たち川崎近海汽船は皆様と一丸となって省エネルギーに取り組んでいくことが社会的な責務と考え、「陸から海への」モーダルシフト推進を重要課題と捉え全社で取り組んでおります。

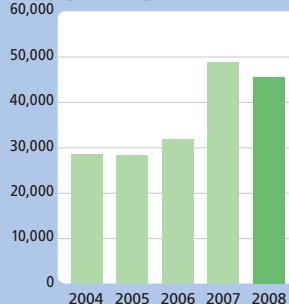
今後も川崎近海汽船は、人に、地球環境にやさしい輸送を目指してまいります。

●フェリー輸送実績

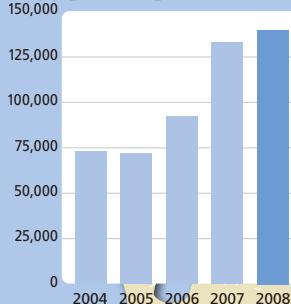
【旅客】



【乗用車】



【トラック】



北海道支社

フェリーとRORO船の集荷業務及び乗船予約を行う他、北海道・東北地方のテレビ・ラジオCM放映のための広告代理店と打ち合わせを行っています。また、道内の拠点（苫小牧支店、釧路支店）を統括し、重要な役割を担っています。



苫小牧支店

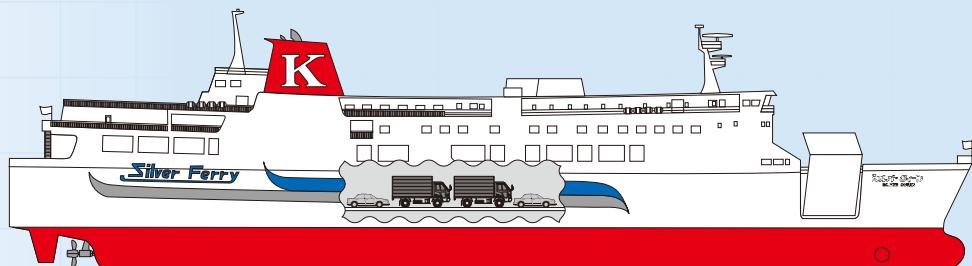
苫小牧発のフェリー及びRORO船の集荷業務、乗船受付と同港へ入出港する船舶の運航管理を行っています。苫小牧港は、フェリーの他、大型RORO船6隻が寄港し重要な北の玄関口となっています。



八戸支社

八戸発のフェリーの集荷業務、乗船受付と同港へ入出港する船舶の運航管理の他、ターミナル内でレストラン及び売店業務を営んでいます。

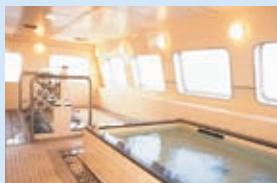
シルバーQueen紹介



本船は1998年（平成10年）3月三菱重工業下関造船所にて建造され、3代目となります。フラッグ・シップというべく他の3隻のフェリーに比較し馬力、速力、積載能力に優れ、八戸港—苫小牧港間を7時間で結びます。特色としては、24時間利用可能なオートレストラン、展望風呂、トラックの運転手のための個室を備え、快適な海の旅をお届けしています。

“シルバーQueen”概要

総トン数	7,005t	車積載能力	トラック90台、 乗用車20台
全長	134m	旅客定員	600名
最大速力	23.2ノット	ドライバーズルーム	80名



シルバーQueen



フェリーはちのへ



べにりあ



べが

フェリー部門の歩み

当社は、1960年代後半より物流におけるモータリゼーションの将来性に着目し、北海道中央部への玄関口として発展しつつあった苫小牧港と東北地方屈指の商業都市へと転換を図りつつあった八戸港を結ぶ一般旅客フェリー事業を計画、1971年（昭和46年）11月、当社及び川崎汽船株式会社グループ会社の出資により、資本金2億円をもって青森県八戸市にシルバーフェリー株式会社を設立しました。その後1992年（平成4年）4月に川崎近海汽船株式会社と合併し、現在に至っています。

- 1971年11月
(昭和46年) ● シルバーフェリー株式会社設立
- 1973年4月
(昭和48年) ● “シルバーQueen”竣工 八戸—苫小牧航路営業開始
- 1979年11月
(昭和54年) ● “フェリーはちのへ”竣工、1日2便体制となる
- 1982年9月
(昭和57年) ● “シルバーQueen”の代替船として船型を大型化した
“シルバーQueen2”竣工
- 1989年9月
(平成元年) ● “フェリーはちのへ”の代替船として大型かつハイグレードの新造船“フェリーはちのへ”竣工
- 1992年4月
(平成4年) ● 川崎近海汽船株式会社と合併
- 1998年3月
(平成10年) ● “シルバーQueen2”の代替船として3代目“シルバーQueen”竣工
- 2006年12月
(平成18年) ● “べが”“べにりあ”を加え1日4便体制となる

連結財務諸表

● 第2四半期連結貸借対照表 (要約)

(単位: 千円)

資産の部	当第2四半期末 2009年9月30日現在	前期末 2009年3月31日現在
流動資産	11,277,499	10,686,083
固定資産	28,195,978	29,707,700
有形固定資産	26,922,974	28,638,689
無形固定資産	117,962	95,847
その他	1,155,041	973,164
資産合計	39,473,478	40,393,784

負債の部	当第2四半期末 2009年9月30日現在	前期末 2009年3月31日現在
流動負債	7,991,237	7,970,252
固定負債	12,561,550	13,974,369
負債合計	20,552,788	21,944,621

純資産の部	当第2四半期末 2009年9月30日現在	前期末 2009年3月31日現在
株主資本	19,495,544	19,095,437
資本金	2,368,650	2,368,650
資本剰余金	1,248,849	1,248,849
利益剰余金	15,904,993	15,504,887
自己株式	△26,948	△26,948
評価・換算差額等	△574,854	△646,275
その他有価証券評価差額金	109,656	36,941
繰延ヘッジ損益	△12,756	△9,203
土地再評価差額金	△666,287	△666,287
為替換算調整勘定	△5,467	△7,725
純資産合計	18,920,689	18,449,162
負債純資産合計	39,473,478	40,393,784

● 第2四半期連結損益計算書 (要約)

(単位: 千円)

	当第2四半期 累計期間 自 2009年4月1日 至 2009年9月30日	前第2四半期 累計期間 自 2008年4月1日 至 2008年9月30日
売上高	17,908,515	26,806,240
売上原価	15,350,168	21,668,363
売上総利益	2,558,347	5,137,877
販売費及び一般管理費	1,764,498	1,823,819
営業利益	793,848	3,314,058
営業外収益	72,024	72,974
営業外費用	125,362	143,955
経常利益	740,510	3,243,077
特別利益	373,323	8,700
税金等調整前四半期純利益	1,113,834	3,251,777
法人税等	478,478	1,244,780
法人税等調整額	△29,003	—
四半期純利益	664,359	2,006,997

● 第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (要約) (単位: 千円)

	当第2四半期 累計期間 自 2009年4月1日 至 2009年9月30日	前第2四半期 累計期間 自 2008年4月1日 至 2008年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,539,218	3,533,549
投資活動によるキャッシュ・フロー	361,560	△1,207,975
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,642,531	△1,559,101
現金及び現金同等物に係る換算差額	△18,145	33,160
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	240,101	799,633
現金及び現金同等物の期首残高	4,901,538	2,736,199
現金及び現金同等物の第2四半期末残高	5,141,640	3,535,832

記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

個別財務諸表

● 第2四半期個別貸借対照表 (要約)

(単位：千円)

資産の部	当第2四半期末	前期末
	2009年9月30日現在	2009年3月31日現在
流動資産	9,799,735	10,015,687
固定資産	22,501,356	23,363,329
有形固定資産	15,873,772	16,835,768
無形固定資産	117,365	95,250
その他	6,510,218	6,432,310
資産合計	32,301,091	33,379,016
負債の部		
負債の部	当第2四半期末	前期末
	2009年9月30日現在	2009年3月31日現在
流動負債	6,179,924	6,520,024
固定負債	7,523,028	8,432,339
負債合計	13,702,953	14,952,364
純資産の部		
純資産の部	当第2四半期末	前期末
	2009年9月30日現在	2009年3月31日現在
株主資本	19,154,768	19,050,588
資本金	2,368,650	2,368,650
資本剰余金	1,248,849	1,248,849
利益剰余金	15,564,218	15,460,037
自己株式	△26,948	△26,948
評価・換算差額等	△556,630	△623,936
その他有価証券評価差額金	109,656	36,941
繰延ヘッジ損益	—	5,409
土地再評価差額金	△666,287	△666,287
純資産合計	18,598,138	18,426,652
負債純資産合計	32,301,091	33,379,016

● 第2四半期個別損益計算書 (要約)

(単位：千円)

	当第2四半期	前第2四半期
	累計期間	累計期間
	自 2009年4月1日	自 2008年4月1日
	至 2009年9月30日	至 2008年9月30日
売上高	17,818,456	26,710,801
売上原価	15,656,108	22,001,046
売上総利益	2,162,347	4,709,755
一般管理費	1,518,516	1,581,412
営業利益	643,831	3,128,343
営業外収益	55,395	89,735
営業外費用	81,161	86,949
経常利益	618,065	3,131,129
特別利益	—	8,700
税引前四半期純利益	618,065	3,139,829
法人税等	262,511	1,206,611
法人税等調整額	△12,879	—
四半期純利益	368,433	1,933,217

記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

トピックス

関東ー苫小牧間 RORO船定期航路再編のご案内

8月24日(月)より、当社と近海郵船物流株式会社は、関東ー北海道間の海上物流の動向を鑑み、『東京ー苫小牧』航路を休止し、『常陸那珂ー苫小牧』航路を増便しました。現在は4隻にて常陸那珂発、苫小牧発ともに1日2便体制の運航サービスを実施しております。

東京 ↔ 苫小牧 ▶

常陸那珂 ↔ 苫小牧

ほっかいどう丸  154 台積
げんかい  96 台積
近海郵船物流 2 隻



苫小牧

常陸那珂

東京



戸地区
小学校総合学習

「べが」勉強会



9月15日(火)当社旅客船「べが」にて、戸市立白鷗小学校の児童15名参加による勉強会が開催されました。当日は「どうしたら船長さんになれるのですか?」「燃料を満タンにしたらどこまで走れますか?」など、熱心に質問している児童の様子が印象的な1日となりました。勉強会の内容は、壁新聞にまとめ、11月に学習発表会が行われたとのことです。



表紙の船

◆ ◆ MARINE VICTOR ◆ ◆

本船は2003年(平成15年)12月、愛媛県今治市にある檜垣造船で建造されました。

定期航路に従事し、日本から香港・タイ・シンガポール・マレーシア向けに、鋼材、雑貨等を輸送しています。また、東南アジアから日本へは住宅用合板、製材、砂糖原料、セメント原料等を輸送し日本と東南アジア圏の経済を結ぶ架け橋となっています。本船の特徴は、貨物を積載する艙内がボックス・シェイプ(完全な箱型)となっており、砂糖等のバラ積貨物の他に鋼材や合板のような固形貨物を安全に積載することが可能です。

総トン数	7,823t
全長	115m
最大速力	13.3ノット
積載能力	10,299t

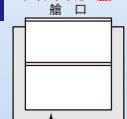


【船艙の断面図】

(一般船)
艙口



(ボックス・シェイプ型の
ツインデッカー船)
艙口



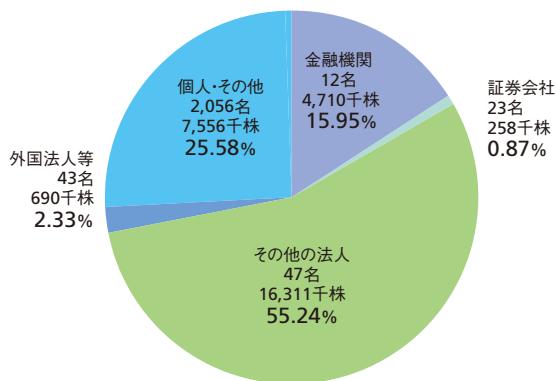
バラスタック

株式の状況 (2009年9月30日現在)

- 会社が発行する株式の総数 97,300,000 株
- 発行済株式の総数 29,525,000 株
- 株主数 2,181 名 (前期末比 97 名増)
- 大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数 (千株)	議決権比率 (%)
川崎汽船株式会社	14,040	47.83
東京海上日動火災保険株式会社	1,840	6.27
株式会社損害保険ジャパン	1,080	3.68
三井住友海上火災保険株式会社	855	2.91
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	586	2.00
川崎近海汽船従業員持株会	383	1.30
北海運輸株式会社	350	1.19
株式会社栗林商会	304	1.04
株式会社ダイトーコーポレーション	278	0.95
株式会社リンコーコーポレーション	150	0.51
日東物流株式会社	150	0.51

- 株式の所有者別状況



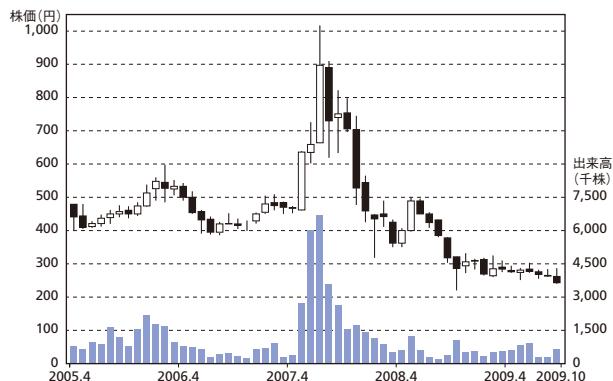
会社概要 (2009年9月30日現在)

- 社名 川崎近海汽船株式会社
KAWASAKI KINKAI KISEN KAISHA, LTD.
- 設立 1966年 (昭和41年) 5月1日
- 本社 東京都千代田区霞が関一丁目4番2号
- 資本金 23億6,865万円
- 代表者 代表取締役社長 森原 明
- 従業員数 396名 (連結ベース)
- 主な事業内容 海上運送事業
海運仲立業
港湾運送事業および倉庫業
貨物運送取扱事業
海運代理店業

- 船舶の状況 (連結ベース)

区分	隻数	重量トン数 (K/T)
所有船	25隻	220,901
備船	26隻	236,023
合計	51隻	456,924

- 株価及び株式売買高の推移



川崎近海汽船株式會社

東京都千代田区霞が関一丁目4番2号 (〒100-0013)

TEL:03-3592-5800 FAX:03-3592-5911

当社IRサイトをご活用ください。

当社ホームページでは、プレスリリースや決算情報等を掲載しております。ぜひご活用ください。

<http://www.kawakin.co.jp/ir/index.html>

株主メモ

- | | |
|-------------------------------|---|
| ■事業年度 | 毎年4月1日から翌年3月31日まで |
| ■定時株主総会 | 6月 |
| ■同上総会権利行使株主確定日 | 3月31日 |
| ■配当金受領株主確定日 | 3月31日 |
| ■中間(第2四半期末)配当受領株主確定日 | 9月30日 |
| ■基準日 | 上記確定日のほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。 |
| ■株主名簿管理人 | 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 |
| ■郵送物送付先
(電話照会先) | 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
取次事務は中央三井信託銀行株式会社の全国各支店ならびに
日本証券代行株式会社の本店および全国各支店で行っております。 |
| ■公告方法 | 電子公告により行います。公告掲載URL (http://www.kawakin.co.jp/)
ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、
日本経済新聞に掲載いたします。 |
| ■住所変更、単元未満株式の
買取等のお申出先について | 株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、
特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。 |
| ■未払配当金の支払について | 株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。 |



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

川崎近海汽船はチーム・マイナス6%に参加しています。



古紙配合率70%再生紙を使用しています